北陸石仏の会々報

第57号
平成31年4月10日発行
編集と発行
北陸石仏の会
（日本石仏協会北陸支部）
代表 平井一雄
〒939-1315
富山県砺波市太田1770　尾田武雄方
電話 0763-32-2772
振替 00740-2-11974
（年会費 3000 円）

・南無仏と五劫思惟の阿弥陀
・神明宮と白山堂
・花咲神社「刀尾天神」石像
・越中鍋屋彦命の碑
・十王の石像
・第58回例会案内

南無仏と五劫思惟の阿弥陀如来

尾田　武雄

富山県富山市平榎の公民館前に、小堂がありそこに黒っぽい石質に彫られた二体の石仏がある。じっくり眺めると向かって左に浮き彫りの聖徳太子二歳像と右にはやはり浮き彫りの法蔵菩薩が安置されている。聖徳太子二歳像は、頭からすっぽりと法衣をかぶせられた姿で彫りこんでいる珍しい姿である。高さが四十五、五センチ、幅二十三センチである。光背の上部に「南無佛　尊像」とある。

また右の法蔵菩薩の法量は高さ六十センチ、幅二十七センチである。光背上部に「五劫思惟　阿弥陀如来　御肖像」とあり、五劫思惟の阿弥陀如来のお姿であることを意味している。これはいわゆる阿弥陀如来の前身である法蔵菩薩のお姿である。この平榎は富山市の北部に位置し水橋の浜黒崎の地区に当たる。ちょうど富山県の中心地にあたる。

この地に富山県東部に多く像立される法蔵菩薩、また県西部に数多く展開する南無仏の両方の石仏が、並立してお堂に安置されていることが珍しく思われる。聖徳太子二歳像を「南無佛　尊像」とし、法蔵菩薩を「五劫思惟　阿弥陀如来　御肖像」とするのは、真宗の信仰が庶民への浸透している証なのであろう。北陸石仏の会会員の地元水橋の高田美也子氏の祭日調査（二〇一二年八月二十三日）によると、この石仏は地元では南無仏、法蔵菩薩という認識はなく石の地蔵さまだとされ、現在は近くの高野山真言宗泉福寺住職が導師を勤められ般若心経の読経がされたという。説教に野辺の地蔵菩薩のお話をされたという。真宗の教えがなくなってしまっている状態である。

真宗は「造像、起塔は本願にあらず」とされ、偶像崇拝を禁じ弥陀一仏の教えがある。真宗王国の富山では、門信徒は南無仏の聖徳太子や法蔵菩薩を奉じる姿に、現在の真宗教団と違う教えと信仰が根付いていることが理解できる。真宗民俗学を知るには、教団化からだけでなく、庶民つまり門信徒の目線からな野にある石仏を研究することも重要な視点だろうと思われる。

平榎公民館前の御堂

南無仏と五劫思惟の阿弥陀

神明宮と白山堂

滝本 やすし

福井県あわら市の丘陵地帯に山十楽の集落がある。集落の中央に春日神社が建てられており、天兒屋根命と猿田彦神が祭神として祀られている。明治以降に統合整備が行われた一般的によくみられる神社である。

神明宮

春日神社から南へ少し歩くと右手に石段があり「神明宮」と彫られた額が掲げられた鳥居が建てられている。石段を登ってゆくと、奥に石祠と一基の灯籠が並んでいる。

石祠の手前に「神明宮」と刻まれた角型の石が置かれているが、もとの古い鳥居の額束であったと思われる。石祠の前面には日月の窓が開けられており、奥壁内面に雨宝童子立像が御神体として浮彫りされている。石段と鳥居は近年作り直されたものであるが、石祠と灯籠は創建当初のものと思われる。

白山堂

集落の北の外れの小高い林に登る石段があり、途中に「山十楽白山堂」と書かれた案内板が建てられている。石段を登り切った所に鳥居が建てられている。額束には「白山」と刻まれている。鳥居の奥に灯籠が一基建てられており、さらにいちばん奥に石祠が建てられている。

灯籠の竿に「白山妙理大権現　御宝前／寛文二■■■■道■作／五月十八日　施主道久」と刻まれている。

石祠の奥壁内面に白山三所権現が浮彫りされている。中央に御前峰の本地仏の十一面観音、向って左に大汝峰の本地仏の阿弥陀如来、右には別山の本地仏の聖観音で、いずれも座像である。「明暦四年／六月十八日」と刻まれていることが報告されているが、現在は剥落が激しく判読困難である。

神明宮の灯籠や石祠には銘文を確認できないが、その手法から白山堂とほぼ同時期の建立と考えられる。明治時代に各地で多くの小社が統合されてしまったが、山十楽では神明宮と白山堂が創建当初に近い状態で残されている。

山十楽神明宮

山十楽白山堂

雨宝童子

白山三所権現

花咲神社「刀尾天神」石像

平井　一雄

1、花咲神社境内の武将石像

富山県富山市旧大山町花崎の花咲神社境内に等身大の武人の石像がある。地面からの台座の上に小型の台座があり、その上に像が立つので全体像は見上げないとわかりづらい。刀剣を持つが刃はない。金属製の刃があったのか、なかったのかわからない。像の足元の小型の台座は四面に区切られている。前面には模様があり後ろ三面に刻字がある。私の背丈では写真が撮れず脚立を持ってきて初めて全文を写すことができた。

奉敬當神社陞格ニ付／先般来盡瘁之處／大正五年十一月十日
指定社御発表相成／永遠ニ傳為記念建之／寄附人松井彌三郎
此ノ建設許可／富山縣知事木間瀬策三／大正五年十一月三十日

不断使わない漢字が使われており古い漢和辞典の中を丹念にさがして解読することができた。

この銘文にいくつかの疑問がある。

「指定社ニ陞格(昇格)」は村社になったことか、「此ノ建設許可」県知事の建設許可が必要な時代だったのか。松井彌三郎とはどんな人物かなどである。

それにしてもこの武人の名前がわからない。

最近、神社の周辺の田圃の隅にある石造物（宝篋印塔）を調査中に、この田の持ち主中森久五郎さんが近寄ってこられたので聞いてみたがこの石像の名は知らないといわれる。又幸いにこの石像の寄附者である松井家の後裔の方にも会うことができ、聞いてみたが名前は聞いていないとのことだった。

松井家は熊参丸で有名な松井製薬株式会社の一族である。

2、花咲神社の由緒・略歴　大山町史より

一、祭神　「素盞嗚命」
二、祭儀　例祭四月二日　春祭三月二日　秋祭十一月十二日
由緒　創立　明暦二年三月二日、旧指定村社。明応癸申二年三月二日勧請、元「刀尾社」の処に、同村鎮座無格社神明社寛正五癸申年八月十六日勧請、同村鎮座無各社地神　正徳元辛卯年六月晦日勧請
同村鎮座無各社水神社勧請年月日不詳の三社を明治四十年七月三日に合祀し、宮跡の官有地譲与ノ許可は同四十二年七月三日付を以って県知事宇佐美勝夫より受ける。

3、刀尾神社のこと

旧大山町と立山町、旧富山市にある刀尾神系の神社は佐伯幸長著『立山信仰の源流と変遷』によると次の通りである。

福沢村湖ヶ原村社刀尾社。大庄村小原屋村社刀尾神社。大庄村花崎村社花咲神社(村社刀尾社に二社を合祀して改名)。大庄村中大浦村社大浦神社(元村社刀尾社に二社を合祀して改名)。大庄村田畠神社(元村社田畠刀尾社に四社を合祀して改名)。上滝町上滝村社三室神社（元村社刀尾社に二社を合祀して改名)。大山村長瀬村社刀尾社。大山村赤倉村社刀尾社。大山村岡田村社刀尾社。以上の祭神は素戔嗚尊である。

太田本郷村社刀尾神社。山室村中市村刀尾天神社。東谷村長倉村社刀尾社。東谷村座主坊立尾社。以上の祭神は天手力雄命である。

4、明治の廃仏毀釈

高瀬重雄著『立山信仰の歴史と文化』昭和五十六年三月より

明治維新後の神仏分離・廃仏毀釈は、立山信仰に一大変革をもたらした。いままで岩峅寺や芦峅寺を、藩の寺社奉行の管轄下において、これを外護してきた金沢藩は、明治二年(一八六九)三月に至って、つぎの申渡書を送った。

「今般御一新につき、神仏混淆の義は廃され候旨仰渡され候に付き、立山権現の称号廃され、雄山神社と相唱へ、芦峅寺・岩峅寺の衆徒共残らず復飾神勤仰付けられ候条、双方打込み策配を致すべく候、尤も仏体は残らず取除き、岩峅の方は、麓前立社壇は雄山神社遙拝所と相改め、本社拝殿御建物を是までの通建おかれ、芦峅の方、大宮・若宮本社の外、姥堂等建物取払ひ、中略、此の段申渡さるべき候。

5、明治以前の立山信仰

立山の十所王子と十二所権のこと。芦峅寺泉蔵坊本の『立山宝宮和光大権現縁起』、岩峅寺延命院本の『立山縁起』も同様であるが。延命院本には、たとえば金剛手威徳王菩薩とは、阿弥陀であり、十万金剛童子とは、大日如来と不動明王であり、八大童子とは不動明王をいうと註せられている。とくに十所の王子の止住する場所が、明瞭に記入されている。

第一王子　刀雄天神　麓地主　不動明王。

延命院本は、刀雄天神について、「是立山権現ノ大行事也」といい、勝妙滝の「主体者不動明王、垂迹ハ刀雄天神」ともいい、さらに「剣御山ハ、刀尾天神」ともいっていて、第一王子として麓の地主神たるのみならず、剣岳にも勝妙滝にも止住することをのべている。

6、明治以降の立山

佐伯幸長著『立山信仰の源流と変遷』昭和四十八年九月より

明治維新の神社明細帳は敗戦によって町村役場及び内務省神社局により廃滅してしまったが神社に現存しているので充分に判明する

雄山神社末社の剣嶽社の明細帳には

「祭神　須佐之男命」

「大宝元年九月佐伯有頼、寄石を以って神実とし、県社雄山神社の末社とす」

と記載されている。各村々鎮座の刀尾社、剣社が「須佐之男命」が多く「天手力雄命」が少なく書かれて分裂している

峯本社は**「富山県管下越中国中新川郡立山村立山峯字立山壱番地**

式内県社雄山神社

祭神　天手力雄命、伊邪那岐命」とある。

7、花咲神社の刀尾天神像

花咲神社の武人像は祭神の「素戔嗚命」とするより「刀尾天神」がふさわしいのではないだろうか。ちなみに神通川上流地区、東猪谷「素戔嗚社」は元「八坂社」であり、江戸時代は「牛頭天皇社」と名乗っていた。明治に至って社号が神道化しているが渡来系の疫病退散の神であることがはっきりしている。猪谷周辺の舟渡「素戔嗚社」、小糸「八坂社」。対岸の西猪谷「八坂社」、片掛「八坂社」も同じであろう。

この原稿を提出後、北陸石仏の会副会長滝本さんからこの像は日本武尊命ではなかろうかとご教示された。終戦真際の金属類供出命令で二ノ宮金次郎像・地蔵等金属製のものは残っているものは少ない。この像は石工銘が入っているからはじめから石像であり残されたのであろう。

戦後、軍国主義を鼓舞する建造物は破却された。奉安殿などは神社神殿などに転用されたものもあるが殆ど残っていない。この像は「日本武尊命」として残さずあいまいな記憶のまま残された遺物であろう。私は立山信仰につながる「刀尾天神像」として残しておけばよいとおもっている。

村社花咲神社

越中鍋屋彦命の碑

尾田　武雄

日本石仏協会の前川勲事務局長から、栃木県の方からの問い合わせで、「越中鍋屋彦」の石碑が群馬県下仁田町の中小坂というところにあるという。そこは幕末から明治期に鉄山と製鉄所があり、この石碑には像はなく、文字だけの碑であるという。「越中」とあるので富山県に関りがあるのではとのことで、私に電話があったのである。高岡市に近世期に鋳物生産が盛んであり、何か関連性があると思われるが多くはわかりません。高岡市の民俗学者樽谷雅好氏にお聞きしても、わからないとのご返事であった。北陸石仏の会会員の皆様にこのような石碑について、何かおわかりでしたらご教示ください。

台座銘文

「水上謹書　石工 宮本久」

十王の石像

滝本 やすし

福井県あわら市熊坂の熊坂大仏の向かいに木造の小堂が建てられており、笏谷石製の十六体の石像(丸彫り十王座像十体、丸彫り司命半跏像一体、丸彫り奪衣婆輪王座像一体、丸彫り地蔵半跏像一体、浮彫り地蔵半跏像一体、丸彫り地蔵座像二体)が納められている。懸衣翁は当初から造られなかったことが考えられるが、司録と司命は一対で造られると考えられるので、司録は後に失われてしまったのであろう。また、丸彫り地蔵半跏像は十王と同時に造られたもののようである。

地蔵半跏像

堂内全景

奪衣婆

司命

十王の一体(閻魔？)

北陸石仏の会 第58回例会

―高岡市の石仏めぐり―

令和元年5月18日(土)

参 加 費：６０００円（バス・資料代）
集合場所：①ＪＲ金沢駅西口……７時３０分
　　②ＪＲ砺波駅南口……８時１０分
申込方法：次の事項を記入の上、ハガキでご連絡ください。
　　住所、氏名、電話番号(携帯電話も)、集合場所
申 込 先：〒939-1315　砺波市太田 1770　尾田武雄方　北陸石仏の会事務局
締め切り：令和元年５月７日(火)
案　　内：滝本やすし(石川県金沢市)

見学予定

◎関大町　曹洞宗観音寺／如意輪観音、馬頭観音
◎関大町　路傍／六観音
◎関町　高野山真言宗総持寺／六十六部の石仏
◎関本町　曹洞宗瑞龍寺／来迎阿弥陀二十五菩薩石廟(前田利長廟)
◎芳野　曹洞宗繁久寺／芸子地蔵
◎荒見崎　路傍／聖徳太子二歳像
◎荒見崎　共同墓地／半跏地蔵
◎戸出町１丁目　曹洞宗太玄寺／摩利支天、「南無釈迦牟尼佛」
◎戸出町２丁目　路傍／「秋葉三尺坊大権現」
◎戸出町２丁目　曹洞宗永安寺／西国三十三ヶ所観音、花山法皇
◎戸出町３丁目　路傍／六地蔵
◎戸出町４丁目　路傍／阿弥陀如来(戸出大仏)
◎戸出町４丁目　曹洞宗不動寺／不動明王、徳道上人、「法華千部塔」
◎戸出大清水　真宗大谷派永願寺／西住碑
◎戸出大清水　路傍(庄川左岸堤防)／「水神」
◎中田　鎮魂の杜／「南無遍照金剛」
◎下麻生　高野山真言宗宝泉寺／出山釈迦、阿弥陀、西国三十三ヶ所観音、青面金剛
［諸事情により見学先を変更する場合があります。ご了承ください。］

平成３１年度の会費を未納の方は同封の振替用紙にて納めてください。年会費は３０００円です。